

## 【(7) 板書】

- ②「ノートやワークシート等と黒板の行や升目を対応させている」
- ③「黒板を区切って使っている」

### 《つまづきの背景》

F 視覚認知の困難さ、H 刺激の選択の困難さ

### 《解説》

ノートと黒板の行や升目を対応させることで、板書を写す際にノートの書き始めや改行箇所が分かりやすくなります。また、黒板は横長ですが、子どものノートは縦長の場合がほとんどです。黒板を縦長のブロックに区切ることで、黒板のどの部分を見ればよいのかが分かりやすくなり、ノートも取りやすくなります。

学級の中には、黒板と手元のノートの間で視線を動かすたびに文字を書く位置を確認しなければならなかったり、見たものを記憶している時間が短いために何度も黒板を見なければならなかったりする子どもがいる場合があります。ノートと黒板の行や升目を対応させることは、これらの困難さを補うことにもつながります。

ワークシートを使う際には、ワークシートと同じものを板書しておくことで、どこを説明しているのかを分かりやすく示すことができます。

また、視力に問題がなくても、漢字や図形の特徴や位置関係を正確に捉えにくい子どもがいる場合があります。黒板を区切ることで授業展開や学習内容が整然と示され、子どもが授業を振り返りやすくなります。

白いマグネットシートを細長く切り、数本準備しておくで簡単に黒板の区切りを作ることができます。

### 【工夫点】

- ・ノートと同じ用紙を拡大して黒板に掲示する。(小 工夫例 50)
- ・ノートと同じ文字数の黒板を活用する。(小)
- ・教科書を板書する場合、改行個所を教科書とそろえる。(高)
- ・黒板に縦線を引き、分割して使う。(小中 工夫例 51)
- ・黒板を縦に3～4分割している。(高)

### ◆工夫例 50 「ノートと同じ用紙を拡大して黒板に掲示する」



#### 《小学校》

ノートを拡大したものを黒板に貼って、説明の際に指差したり、線で囲んだりします。ノートと同じなので、子どもは板書を写しやすくなります。

### ◆工夫例 51 「黒板に縦線を引き、分割して使う」



#### 《小学校》

横書きの場合は黒板全体を縦長に分割して使うことで、板書とノートに対応させやすくなります。また、学習の振り返りの際には、板書のどこを見ればよいのかが分かりやすくなります。